

品目別実績書

実施地区	長崎地区、西海地区、島原地区	品目	びわ																		
実証目的	<p>①通常用いることのない生存した遅れ花の育成を行うため追加の薬剤散布によって生産量を確保する。（長崎地区のみ実施）</p> <p>②令和5年1月の寒波で果実が枯死したことで栄養成長が旺盛となり立枝が多く発生したため、誘引・枝切を実施し花芽生成を促進する。</p>																				
実証結果	<p>1. 取組内容（実証面積 ①2.68ha、②54.89ha）</p> <p>①長崎地区において、寒害発生後、遅れ花への病虫害防除を実施</p> <p>②長崎・西海・島原の3地区において寒害被害を受けた樹を対象に追加的な新梢処理（誘引等）を実施。</p> <p>2. 結果</p> <p><b>【長崎地区】</b></p> <p>①実証圃場における令和5年産の出荷量は平均280kg/10であり、前年産の74%の出荷量を確保でき（前年産出荷量平均380kg/10a）、遅れ花の追加防除により生産量の確保が実証できた。</p> <p><b>実証圃場の平均出荷量比較</b></p> <table border="1" data-bbox="333 981 821 1066"> <thead> <tr> <th>R5年産</th> <th>R4年産</th> <th>R5/R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>280kg/10a</td> <td>380kg/10a</td> <td>74%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②実証圃場における品種「なつたより」は、56%の園が平年より樹勢が強い傾向にあった。着房率は80%以上の園が63%、70～80%の園が30%を占めた（部会定点の着房率平年値72.3%）。また、品種「茂木」は、45%の園が平年より樹勢が強い傾向にあった。着房率は80%以上の園が66%、70～80%の園が27%を占めており（部会定点の着房率平年値71.9%）、両品種とも誘引により平年並～高い着房率が実証できた。</p> <p><b>実証圃場における着房率の割合</b></p> <table border="1" data-bbox="333 1319 1236 1489"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>着房率80%以上の園地割合</th> <th>着房率70%以上80%未満の園地割合</th> <th>着房率70%未満の園地割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なつたより</td> <td>63%</td> <td>30%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>茂木</td> <td>66%</td> <td>27%</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【西海地区】</b></p> <p>②実証圃場の平均着房率は92%となり、当該地区での平均着房率90%と同等の着房率を確保できた。</p> <p><b>【島原地区】</b></p> <p>②実証圃場の平均着房率は94%であり、平年産（過去3ヵ年平均）は97%であり、平年並の着房率を確保できた。</p> <p>3. 今後の普及</p> <p>今後も、寒害発生時には遅れ花確保のための防除の徹底について栽培講習会等で指導を行っていく。また、誘引の実施や寒害被害軽減のための管理指導も併せて実施する。</p>			R5年産	R4年産	R5/R4	280kg/10a	380kg/10a	74%	品種	着房率80%以上の園地割合	着房率70%以上80%未満の園地割合	着房率70%未満の園地割合	なつたより	63%	30%	7%	茂木	66%	27%	7%
R5年産	R4年産	R5/R4																			
280kg/10a	380kg/10a	74%																			
品種	着房率80%以上の園地割合	着房率70%以上80%未満の園地割合	着房率70%未満の園地割合																		
なつたより	63%	30%	7%																		
茂木	66%	27%	7%																		

品目別実績書

実施地区	諫早地区	品目	たまねぎ																																				
実証目的	寒波後、追加的な追肥・葉面散布剤の施用や薬剤散布の実施によって、生産量の確保につながる管理体系を検討する。																																						
実証結果	<p>1. 取組内容（実証面積：29.75ha）</p> <p>（1）品目（作型）：たまねぎ（極早生）</p> <p>（2）実施時期：令和5年1月25日～4月30日</p> <p>（3）病害対策：1～4回散布（殺菌剤散布）</p> <p>（4）草勢維持対策：0～4回施用（追肥・葉面散布施用）</p> <p>※葉面散布剤(N-P-K 6-6-4)</p> <p>固形肥料(N-P-K 16-0-16)・(N-P-K 15-4-15)</p> <p>※圃場条件、被害状況等に応じ、薬剤種類・回数・時期は生産者によって設定</p> <p>R5：4,755kg/10a</p> <p>平年：4,847kg/10a（R3-R4）</p> <p>当初減収見込率：35%、追加的対策取組後減収率：2%</p> <p>回復率：33%</p> <p>&lt;参考&gt;事業取組生産者のうちR3-R5までの比較可能な91名のデータ分析結果</p> <p>①殺菌剤防除回数による単収比較および減収率の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>R5単収(kg/10a)</th> <th>平年(R3-4)単収(kg/10a)</th> <th>減収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3,649</td> <td>4,758</td> <td>23.3%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4,918</td> <td>5,023</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>3～4</td> <td>4,719</td> <td>4,678</td> <td>-0.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②追肥・葉面散布回数による単収比較および減収率の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>R5単収(kg/10a)</th> <th>平年(R3-4)単収(kg/10a)</th> <th>減収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>4,463</td> <td>4,855</td> <td>8.1%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>4,444</td> <td>5,327</td> <td>16.6%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3,520</td> <td>4,417</td> <td>20.3%</td> </tr> <tr> <td>3～4</td> <td>4,685</td> <td>4,658</td> <td>-0.6%</td> </tr> </tbody> </table>			回数	R5単収(kg/10a)	平年(R3-4)単収(kg/10a)	減収率	1	3,649	4,758	23.3%	2	4,918	5,023	2.1%	3～4	4,719	4,678	-0.9%	回数	R5単収(kg/10a)	平年(R3-4)単収(kg/10a)	減収率	0	4,463	4,855	8.1%	1	4,444	5,327	16.6%	2	3,520	4,417	20.3%	3～4	4,685	4,658	-0.6%
	回数	R5単収(kg/10a)	平年(R3-4)単収(kg/10a)	減収率																																			
1	3,649	4,758	23.3%																																				
2	4,918	5,023	2.1%																																				
3～4	4,719	4,678	-0.9%																																				
回数	R5単収(kg/10a)	平年(R3-4)単収(kg/10a)	減収率																																				
0	4,463	4,855	8.1%																																				
1	4,444	5,327	16.6%																																				
2	3,520	4,417	20.3%																																				
3～4	4,685	4,658	-0.6%																																				
<p>2. 結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・殺菌剤防除2回以上で減収抑制効果が比較的高かった。</li> <li>・追肥・葉面散布回数と減収抑制の効果は判然としないが、3回以上では効果がみられた。</li> </ul> <p>3. 今後の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、生産部会内で実証結果の情報共有を図り、厳寒期での寒波対策を徹底し収量確保に努める。</li> </ul>																																							

品目別実績書

実施地区	五島地区	品目	ばれいしょ																																				
実証目的	早期の樹勢回復のための葉面散布剤の施用による減収低減効果の実証																																						
実証結果	<p>1. 取組内容（実証面積：3.72ha）</p> <p>（1）葉面散布剤の追加施用 寒波被害からの早期樹勢回復のため、葉面散布剤の追加施用し、ばれいしょの減収を低減する効果を実証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種：デジマ</li> <li>・実施時期：寒波襲来日の8日後から13日後に散布した。</li> <li>・葉面散布剤成分：N-P-K 7-5-3</li> </ul> <p>2. 結果</p> <p>（1）令和5年単収 馬铃薯部会平均：1.16t/10a・・・①（平年単収比77.8%）＝①÷③ 受益者平均：1.23t/10a・・・②（平年単収比82.6%）＝②÷③ （令和5年3月から令和5年4月までの収穫）</p> <p>（2）平年単収：1.49t/10a・・・③（100%） （H30からR4までの5カ年のうち最大最少を除く3カ年平均）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散布後の受益者の令和5年産平均単収は1.23t/10aとなり、平年単収1.49t/10aの82.6%にとどまった。しかし、馬铃薯部会全体の平均単収は1.16t/10a、平年単収の77.8%であり、受益者平均は部会平均より4.8ポイント上回った。</li> <li>・当初減収率：30% 実証後減収率22.2%</li> <li>・寒波後8～13日後に葉面散布剤を追加施用することで、収量維持につながったと推察する。</li> </ul> <p>&lt;参考&gt;R5年産とH30からR4の過去5年間の最大最小値を除く3カ年平均との比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>5中3平均</th> <th>R5/平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積 a</td> <td>1,910</td> <td>1,110</td> <td>712</td> <td>750</td> <td>710</td> <td>719</td> <td>1,124</td> <td>64.0%</td> </tr> <tr> <td>出荷量 t</td> <td>271</td> <td>228</td> <td>120</td> <td>112</td> <td>83.6</td> <td>83.5</td> <td>168</td> <td>49.8%</td> </tr> <tr> <td>単収 t/10a</td> <td>1.42</td> <td><u>2.05</u></td> <td>1.69</td> <td>1.49</td> <td><u>1.18</u></td> <td>1.16</td> <td><u>1.49</u></td> <td>77.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 今後の普及 得られた結果について、産地内へ周知する。また、茎葉の再生状況に応じた葉面散布剤の施用時期を品種別に検討する必要がある。</p>				H30	H31	R2	R3	R4	R5	5中3平均	R5/平均	面積 a	1,910	1,110	712	750	710	719	1,124	64.0%	出荷量 t	271	228	120	112	83.6	83.5	168	49.8%	単収 t/10a	1.42	<u>2.05</u>	1.69	1.49	<u>1.18</u>	1.16	<u>1.49</u>	77.8%
	H30	H31	R2	R3	R4	R5	5中3平均	R5/平均																															
面積 a	1,910	1,110	712	750	710	719	1,124	64.0%																															
出荷量 t	271	228	120	112	83.6	83.5	168	49.8%																															
単収 t/10a	1.42	<u>2.05</u>	1.69	1.49	<u>1.18</u>	1.16	<u>1.49</u>	77.8%																															

品目別実績書

実施地区	五島地区	品目	たかな																																																						
実証内容	被害葉の除去による凍害の蔓延防止、品質向上効果の検証																																																								
実証結果	<p>1. 取組内容（実施面積：3.67ha）</p> <p>（1）葉かき作業の実施 寒害で外葉が枯死した株で、取扱量確保のため、収穫時に追加的な外葉の除去作業によって生産量を確保する。 葉かき作業は1月28日から2月22日にかけて収穫作業とともに実施した。</p> <p>2. 結果</p> <p>（1）実証圃場：助成対象者のR5年2月の出荷数量総数は301t。 追加的作業をしなかった場合、生産物は圃場へすき込まれ、収穫量は皆無（0t）と想定されるため、回復数量は301tとなる。</p> <p>表1 2月の生産量の推移（単位：t）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>H31.2</th> <th>R2.2</th> <th>R3.2</th> <th>R4.2</th> <th>R5.2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部会全体の生産量</td> <td>585</td> <td>1,100</td> <td>494</td> <td>318</td> <td>423</td> </tr> <tr> <td>うち受益者の生産量</td> <td>214</td> <td>410</td> <td>219</td> <td>185</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）考察 外葉が枯死した個体は通常収穫しないが、今回の寒波においては個体の葉かき作業を行うことで商品化することができ、収穫量の回復につなげることができた。 なお、葉かき作業についてはJAと実需者の協議により、実施されることとなった。</p> <p>3. その他(参考) (R4年度産とH29からR3の過去5年間の最大最小値を除く3カ年平均との比較)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度産</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>5中3平均</th> <th>R4/平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積ha</td> <td>65.6</td> <td>66.0</td> <td>65.3</td> <td>69.3</td> <td>55.0</td> <td>44.6</td> <td>65.6</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>出荷量 t</td> <td>2,360</td> <td>2,643</td> <td>2,434</td> <td>1,706</td> <td>1,549</td> <td>1,649</td> <td>2,167</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>単収 t/10a</td> <td>3.60</td> <td><u>4.00</u></td> <td>3.73</td> <td><u>2.46</u></td> <td>2.82</td> <td>3.70</td> <td><u>3.30</u></td> <td>112%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※たかな収穫年度は11月から翌年4月まで</p> <p>4. 今後の普及 今回の実証結果を高菜部会で共有し、今後寒害の被害があった場合、実需者に対して葉かき作業の実施の合意形成をJAに依頼し、実需者の合意のもと葉かき作業を実施し、出荷数量を確保する。</p>			年月	H31.2	R2.2	R3.2	R4.2	R5.2	部会全体の生産量	585	1,100	494	318	423	うち受益者の生産量	214	410	219	185	301	年度産	H29	H30	H31	R2	R3	R4	5中3平均	R4/平均	面積ha	65.6	66.0	65.3	69.3	55.0	44.6	65.6	68%	出荷量 t	2,360	2,643	2,434	1,706	1,549	1,649	2,167	76%	単収 t/10a	3.60	<u>4.00</u>	3.73	<u>2.46</u>	2.82	3.70	<u>3.30</u>	112%
	年月	H31.2	R2.2	R3.2	R4.2	R5.2																																																			
部会全体の生産量	585	1,100	494	318	423																																																				
うち受益者の生産量	214	410	219	185	301																																																				
年度産	H29	H30	H31	R2	R3	R4	5中3平均	R4/平均																																																	
面積ha	65.6	66.0	65.3	69.3	55.0	44.6	65.6	68%																																																	
出荷量 t	2,360	2,643	2,434	1,706	1,549	1,649	2,167	76%																																																	
単収 t/10a	3.60	<u>4.00</u>	3.73	<u>2.46</u>	2.82	3.70	<u>3.30</u>	112%																																																	

品目別実績書

実施地区	諫早地区	品目	リーフレタス						
実証目的	寒波前におけるトンネルバンドの締め直しによる風寒害被害の軽減								
実証結果	<p>1. 取組内容（実証面積：3.20ha） 被害期間に作付けがあった面積は8.2haで、うち、5haが被害を受けた。被害がなかった3.2haは、寒波の情報があつた当日より、トンネルバンドの締め直しを行った。</p> <p>2. 結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トンネル栽培面積 : 821.0a</li> <li>トンネル栽培の平均単収 : 1,839kg/10a (令和3年度単収及び令和4年度実証面積単収の平均) ※令和元年、2年度はカモ被害があるため平均単収から除いた。</li> <li>当初見込み 減収率100%（全圃場）、出荷量0t、減収量151t</li> <li>対策実施圃場：出荷量93.3t、単収1,862kg/10aで、平年単収(1,839kg/10a)並みの収量が確保できた。</li> <li>対策未実施圃場：出荷量皆無、単収0kg/10a</li> <li>実証後収量 全体減収率38%（当初見通しに対する回復率62%）、出荷量93.3t</li> </ul> <p>・実証を行わなかったところは、凍害により出荷できず、行ったところの単収の実績は、1,862kg/10aで、2か年の平均単収と同等の結果となり、効果が認められた。</p> <p>・寒波の気象情報を受け、締め直し作業を行ったが、収穫作業と並行して行ったため、全面積の実証には至らなかった。しかしながら、実証を行ったところは、保温効果があり、リーフが凍ることもなく、例年と同等の単収となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>&lt;参考：推測値&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初減収見込み額 19,209,838円</li> <li>・減収額 7,343,427円</li> <li>・実証による収益額 11,866,412円</li> </ul> </div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">対策実施 3.2ha</td> <td style="padding: 5px;">対策未実施 5ha</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出荷量 : 93.3t</td> <td style="text-align: center;">出荷量 : 0t</td> </tr> </table> </div> <p>3. 今後の普及 気象情報を受けて作業開始となったが、栽培面積が広いため労力の確保ができなかった。被害が想定される冬季期間中に、1～2回程度締め具合を確認することが望ましい。</p>			対策実施 3.2ha	対策未実施 5ha	↓	↓	出荷量 : 93.3t	出荷量 : 0t
対策実施 3.2ha	対策未実施 5ha								
↓	↓								
出荷量 : 93.3t	出荷量 : 0t								